
全否定と全支配。 ~二人の少女~

夕凧と雪うさぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

全否定と全支配。〜二人の少女〜

【コード】

N8906W

【作者名】

夕風と雪つばき

【あらすじ】

とあるの世界を駆け回ります。

はい、それだけです。

内容は読めばわかります！！

誰か！！読んでっ！！

いらっしやい。おひさし・・・へー！（前書き）

夕風と雪つなぎと申しますー！

はじめての合作ですー！

素人ですが読んで頂けるとうれしいです。

いらっしゃい。よしよし……へー！

今日は気分が良い。

偽善者だらけのこの世界。

そんな世界とは今日でおさらば。

「さよなら。僕の住む世界。」

ここからだ僕が僕の住む世界を一望できる。

フサアアアア

心地よい風が髪をなびかせる

一歩進むとそこは空中。

ま、簡単にいえばどこかしらの高いビルの屋上の柵の外ってことだ。

30mほどあるだろうか……。

ガチャッ

「やめてっ！！乃々っ！！」

漣？わざわざ止めに来たの？

「止めないで……知ってるでしょ、漣。僕はこの世界を否定した

いんだ。」

「だからって死ぬことないじゃないっ！ーうちの言っこと聞けんってか?!」

「そんなに怒らなくても・・・あ。」

滑った・・・。

「乃々!!!!!!!!!!!!!!」

澪が自分の胸ほどある柵を軽々飛び越え、手を伸ばしてくる。届くはずもないのに・・・。

そして僕は澪のこの顔をよく知っている・・・泣くのを堪えている顔だ。

僕はこの顔に弱い。

なぜか罪悪感を感じてしまい無言になってしまうのだ。

思いつきり泣けばらくになるのに、どんなにつらいことがあっても絶対泣かないと決めたらしい。

そう、澪の母が死んだとき。

それから澪は絶対に泣いたりはしなかった。

澪の父が死んだときも、泣かなかった。

・・・死に際にこの顔をみるのはツライ。

僕はそっと目を閉じた。目を閉じると、他の感覚が研ぎ澄まされたくさんの音が聞こえる。

人のうごめく音、鳥の鳴き声、よく聞く鈴の音。・・・鈴の音!?

この鈴の音は澪の携帯に付いている・・・

こんなに近くに聞こえるはずがない・・・

僕は目を開けた。

なぜだろう。澪の顔が遠くに離れていない気がした。

僕は落ちていつているはずなのに・・・

っ!!

もしかして、もしかしなくても!

一緒に落ちてしまったのか?

いつも一緒だった。

だからって滑るところまで一緒だなんて・・・

僕は人生を捨てた。

だから確実に死ぬるビルの高さを選んだ。

ということは、確実に澁も同じように死ぬだろう。

ああ、この世界でたった1人の大切な人を自分の勝手に巻き込むなんて……

願わくば天国で澁が幸せになりますように……。

そう信じそつと目を閉じた。

目を閉じる瞬間、目の前が真っ白になった気がした。

死んだのかと思った。

だが痛みがない。

死ぬのはこんなにラクだったのか？

「乃々!!おきて!乃々!!」

澁の声がする。

ということは天国？

なぜこの僕まで・・・

そう思いふと目をあけると・・・

そこは終わりのない白い白い世界だった。

これが数時間前の出来事・・・のはずだ。

「乃々ちゃん？・・・ココドコ？？うちらって死んだんじゃ？？」

「・・・さあ？空間の狭間じゃないのかな？本で読んだことある。」

【せいかりい！！飲み込み早くて助かる〜！！】

「誰？」

「なあ？」

【あたしは神様です！君たちの死に方がかわいそすぎたので転生させようと思います！！】

「……………で？」

「乃々！！転生だよ！？『……………で？』って！！！」

「……………僕は死にたかつたんだけど。それなら溻だけ……………」

【うわあ、ここまで命に執着ない人初めてカモ……………！！】

「乃々！！あの〜どうなるんです？転生場所とか……………」

【んつとねえ〜。とある科学の超電磁砲の世界に行ってもらいま〜す！！】

……………うれしいかも。

僕とあるシリーズ好きなんだよね。

「……………能力は？」

「アレ？乃々、乗り気じゃんか。」

「……………うん。とあるなら行ってもいい。」

【じゃ、話は済んだ？能力はあつちに行ったらわかるから……………！！】

「・・・わかった。」

【あ、原作と違うところは多々あるけどきにしないでえ。あと、運動神経と学力はかなり上げとくネ！】

なんか・・・

意味ありげな笑顔・・・毘がりそうだ。

たとえば・・・

【じゃ、いつてらっしゅあ〜い！〜 三】

ドンッ

「え?!ちよっ!また落ちるのおおお???」

とあるの世界がぁ楽しみ・・・

いらっしゃい。ようこそ・・・へー！（後書き）

どうでしたか！？

楽しんでいただけたでしょうか！？

投稿は遅いと思いますが、

次回も見えていただけると嬉しいです。

結城 乃々……について……。(前書き)

今回は主人公のひとりである乃々についておはなしします！
by 雪しねね

結城 乃々……について……。

結城 乃々

転生前はきつと高校生……。

転生後は中学生。（中学校には行ってない……。）

なんらかのトラウマがあり人間不信に……。

そのためか能力名は オールノット 全否定

能力の詳細

この能力はこの世の概念を捻じ曲げることができる。

法則の否定……矛盾から成り立つ能力である。

一方通行のデフォが反射であるようにこの能力のデフォは消失、もしくは通過である。

この能力の対象外なのは対極の存在にある全支配である。

序列 第 位 ロストナンバー

消えた9人目、である。

もつとも、書庫には能力名しか載っていない。バンク

もと置き去り（チャイルドエラー）である。

容姿

髪はかなり淡い（遠くから見ると白色に見えるくらいの）水色。

瞳は灰色。

背は平均身長。

普段は黒いネコミミか白いうさミミのパーカーにチェックか灰色のスカート。

カバンの中には必要最低限の 財布

救急セット

パソコン

だけ。

結城 乃々……について……。(後書き)

なぜこんなことをしたかというところ……バカな雪うさぎが誤って
違ってお話を載せてしまいその消し方を知らなかったからです。
今後は気を付けます!!

じゃないと、夕凧に殺されちゃいますからwww

結城乃々が壊れた日（前書き）

まったく！夕凧したら更新してくれないんだからっ！！
いつになったらあの子の事を紹介するんだか……

結城乃々が壊れた日

「ン？んkh不gghhfんだbc」

「おいhggbuygrdvxujjio sadgnyngrgrjue rjjio
uydfgglkjjghfrtggnyじφおynggfcv.jnng
でxcyふい76d。」

ウルサイ……。

ダメレ、僕の前にクルナ。

………
「………」

？

急に静かになった？

n「なんで……？」

！？

お「お前誰だ！？」

どうして？……どうして僕の心がヨメルノ？
拒絶してるのに……ドウシテ？

こわい……。

「君はおもしろいね。」

「……………え？」

「君は強く見えるのにひどく脆い。とくに心が……………」

「ツ!? あ……………あああああ!?!」

入ってくるな

僕は一人でも

平気

何もいらぬ

クルナクルナクルナ!!

「大切な人……………【殺しちゃったんだあVV】」

結城乃々が壊れた日（後書き）

だれでしょうね？

あの人・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8906w/>

全否定と全支配。～二人の少女～

2011年12月17日13時53分発行